

(様式第1号)

研究No. (記載不要)	16 - デ - 5
-----------------	------------

平成 16 年度配分 研究成果の概要

研究名	静岡家具を対象としたサステイナブルデザイン研究				
配分を受けた 特別研究費	デザイン学部長 特別研究費 2、450 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	デザイン学部	空間造形学科	教授	宮川 潤次	プロトタイプデザイン 開発 静岡家具デザイン展
	デザイン学部	生産造形学科	教授	黒田 宏治	流通手法の検討
共同 研究 者					
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要 研究報告発表予定		号 数	第 5 号 (年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法: 「シズオカ KAGU メッセ 2004」にて 展示発表		発表日 (発表 予定日)	平成 17 年 5 月 7 日 ～11 日 (10・11日は一般公開)	

注:配分を受けた翌年度の6月末までに提出

(研究の目的等)

静岡市周辺は江戸期からの伝統的な木工技術を活かした和家具産地であったが、近年、安価な海外生産品拡販によって次第に市場から締め出されつつある。この背景には、生産コストや中間流通コストの高さ、社会的なニーズを的確に把握した商品開発の欠如、それによる家具産地としての個性的なブランド形成ができなかったことなどがある。一方、社会的には地球全体及び都市・地域の環境悪化の急激な進行に対して、これらを抑制するサステナブル(持続可能)な社会づくりが大きなニーズとしてあげられている。

本研究では、今後の持続可能な社会づくりに向けたサステナブルデザインの展開のひとつとして静岡家具を対象に選び、地域の素材や伝統的な技術などの地域資源を活かしたエコロジカルな個性を備えた家具のデザイン、及び市場性を確保するための新たな流通手法の可能性を探り、それらの新たな方向性を提示することを目的とした。

(研究の実施方法等)

1. サステナブル家具のプロトタイプデザイン及び流通手法の検討

1) 現況把握、及び利用可能な地域資源情報の収集

文献調査、関係者ヒアリング等により静岡家具の現況を把握するとともに、利用可能な地域の素材と技術等の情報を収集した。

2) 対象家具の選定

静岡家具の様々な領域の中から、需要の高いダイニングセットをデザイン対象として選定した。

3) デザイン目標の設定

サステナブルデザインの考え方に基づき「地産地消」、「自然素材」、「手づくり」をデザイン目標として設定した。

4) プロトタイプデザイン

数段階のデザイン展開をもとに試作品を自主製作し、家具職人等とのミーティングをふまえて製品試作を作成した。製品試作を2005年5月にツインメッセ静岡で開催された「シズオカ KAGU メッセ 2005」において「素っぴんの家具」として発表した。

5) 流通手法の検討

サステナブルな家具を適正な価格で供給するため、製品展開を「半完成品の自作キット」とし、DIY ショップでの販売や、インターネットを通じた直接販売を試みている。

2. 「デザインショック展inはままつ」の開催

静岡家具の今後の展開の可能性を探るものとして、静岡地区、及び静岡家具を対象として先駆的な活動を行っているデザイナーの作品を本学において展示するとともに、デザイナーと本学学生及び当地域の市民らとの交流を図った。

(得られた成果等)

1. 静岡家具におけるサステイナブルデザイン展開の可能性提示

「地産地消」、「自然素材」、「手づくり」をコンセプトにした「素っぴんの家具」を試作し、シズオカ KAGU メッセ 2005 で公開展示するとともに、サステイナブルデザインの考え方の広報を行った。作品は中日新聞朝刊(静岡版)記事に掲載されるなど、静岡家具の新たな方向性を示すものとして好評を得た。また、「サステイナブルデザイン」の考え方は、メッセを主催した静岡家具工業協同組合の間にも広まりつつあり、今後の静岡家具ブランドとしての展開が期待されている。

平成 17 年度は、製品の市販とシリーズ化に向けた作業を継続している。

2. インターネット、ワークショップを利用した家具流通の可能性

従来の流通コストが高い問屋型流通に変わるものとして、インターネットを利用した通信販売方式と、地元建築家・インテリアプランナー協会等との協働ワークショップによる直接販売方式を提案した。

平成 17 年度は、製品化に合わせて情報コンテンツの整理、協働ネットワークの構築等を進めている。

2. 産学協働ネットワークの形成

「素っぴんの家具」試作過程での協働や展示公開での広報等により、サステイナブルな静岡家具ブランドへの関心を高めることができた。これをもとに今後も、本学、素材メーカー、家具メーカー、地元建築家グループ等が協働するネットワーク構築を進めてゆく。

3. 地元デザイナー作品展示と交流

本学西ギャラリーにおいて、地元家具デザイナーと本学学生及び市民との交流を目的とした「デザインショック展 2004in はままつ」を開催した。作品展示とデザイナーと本学教員による座談会を行い、静岡の家具デザインの可能性を示した。本学学生にとってデザインの実践を知るよい機会であったとともに、本学と地元デザイナーを結ぶ機械となった。展示会と座談会は静岡新聞、中日新聞記事に掲載されるなど評価を得た。

会期:平成 16 年 10 月 2 日～11 日

会場:本学西ギャラリー

内容:作品展示(13 名/約 70 作品)、座談会(10/8 約 50 名が参加)

上段の写真:「素っぴんの家具」展示ブース

ハンモックチェア／木組みテーブル



大学西ギャラリーで行われた「デザインショック展」の座談会の様子が紹介された。

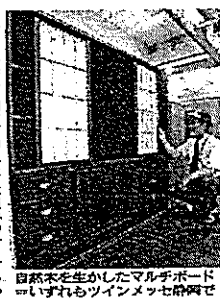
デザインショック展／展示風景



斬新デザイン

和風でモダンな4000点
一般公開 10、11月

神岡市を以て興業のツインメツを標榜して七月間
毎した「シネオカハグメツカヨリ」(興業)
役員(工務組女主理)の会報には、和風のモダンな
約四千坪が竣工。出願八十六社の中には、大塚
と宇野ととのコンビネーションで新築されたとい
う。いかに建築する地元業者もめづられ、
新築したサインや機能性が意匠家の注目を集めて
いる。



自然木を生かしたマル手ボード
＝いずれもツインメッセ静岡で

人気のミニチュアを飾るコレクションケース

また、銅家藝工業組合が、昨開いた、若手デザインコンクールで、若手デザイナーの力作を、銅メダルの賞状を、銅製のケースに、展示し、会場で展示した。同展は十一日までで、一般公開は、十一日。

デザイン談議に花

「デヤン・韓国」が主
座。地デヤンと云
生若き時と云ふなり
を採りしと云ふ事
た。

静寂には、デヤン
の清水像と静寂、十
静寂、さへ、日影結末
さの三人のデヤン
が静寂、静寂デヤン
静寂静寂や学生が静寂
人集まると。

まづ、三人が静寂云

静寂に静寂デヤン
から静寂静寂や学生
らに静寂の静寂文
化静寂静寂。

家具展
出品者
コンセプト熱く

静岡文化芸大で公開座談会

[illegible]